



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	メタなコミュニケーションによる学習動機の維持について：自習型CALL授業における課外交流の促進
Author(s)	田邊, 鉄; 長野, 督
Description	2008 PC Conference. 2008年8月6日(水)～8日(金). 慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス.
Relation	2008PCカンファレンス論文集 pp.262-263
Issue Date	2008
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46816
Type	conference paper
File Information	2008pcc.pdf



メタなコミュニケーションによる学習動機の維持について

～自習型 CALL 授業における課外交流の促進～

北海道大学情報基盤センター 田邊 鉄 長野 督

ttanabe@iic.hokudai.ac.jp

1. 研究の目的

本研究は、授業の前後など、課外で行われる「授業についてのメタな情報交換」が、初習外国語科目の学習にもたらす効果を明らかにし、自習型 CALL 授業で「授業について語る」機会を確保する方法を開発検証する。

2. 北海道大学の初習外国語教育の現状

2008 年度後期から、北海道大学では初習外国語（独仏露中）で、完全自習型の CALL 授業が実施される。週 2 回の外国語授業のうち教師が対面で行う授業を 1 回とし、もう 1 回を学生がコンピュータを用いて自習する「授業」とする。語学ごとにいくらか温度差はあるが、Web ベースで行う文法・語彙ドリル、聞き取り、読解などが授業の中心になる。

英語では 2006 年度から前期に自習型 CALL 授業・英語 II を必修化しているため、学生が操作に不慣れ、ということはないが、手取り足取り行ってきた外国語の入門教育の途中で、いきなり「片手を離」しては、学習が思うように進まないのではないかと、また、教員や授業に対する信頼感が薄れ、モチベーションを大きく下げるのではないかと懸念している。

3. メタな情報の有効性

本研究で取り扱う授業のメタ情報とは、授業に関する情報のうち、コンテンツ自体を除く全ての情報を指すものとする。おおむね以下の内容が含まれる。

(1) 授業目的、辞書や参考書、スケジュール等、狭義のメタ情報

(2) 試験や成績評価に関わる情報

(2) 教員や授業自体の評価に関わる情報

(3) 学生から教員への質問

(4) イベントや奨学金、資格試験等の紹介

(5) 当該外国語の文化・社会的背景、個人の渡航経験などの雑談

これらは学生同士あるいは教員と学生の間で交換される情報であるが、その交流が起こるタイミングは授業中をのぞけば、授業前後の 5 分程度の時間内に集中している。例えば授業中質問しなかった学生でも、授業後直ちに席を立てて教卓に駆けつける。まるでそれ以外の時間、学生は教師に質問をしてはいけないかのようだ。

筆者は担当クラスで「学習のまとめ」を毎回書かせている。ペアで担当する非常勤講師の授業も含め、週 2 回、授業で大事だと思ったことを 3 つずつ書かせる。授業直後にまとめを書く学生は、具体的な記述が多く、コメントも読ませるものが多い。それ以外の時間に無理やり書いてくる者は「文法」「発音」とだけ書いてあるなど、おざなりなものが多く、総じて成績評価も高くない。

授業時間の直前直後にほんのわずかな時間、授業「について」語ること、授業を意識することで、学習効果は大きく上がることがわかる。

これは「きっかけ」の問題である。学生の頭脳に時限装置を仕掛けて、週末に授業を思い出すように仕向けても、学習効果はそうは上がらない。

4. オンラインでのメタ情報交換

半ばフリーアクセス化する自習型 CALL 授業では、上で示した授業開始前・終了後といった情報交換のための機会は失われる。友人と一緒に受講することも期待できるかもしれないが、「一人で、暇な時」という受講形態を認める以上、過度の期待はできない。

いきおい、メタ情報の交換もオンラインで行うことになる。以下のような手法が広く知られている。

- (1) ホームページで授業に関する情報や、イベント等の追加情報を公開。また Weblog 化し、コメント欄を学生と教師との Interaction に使う。
- (2) 掲示板で学生同士の Interaction を促進する。
- (3) SNS を用いて、(1)と(2)をまとめて行う。

ところが、初習外国語の自習 CALL という条件が、これらの手法を極めて困難にする。まず、学生がパソコンの外国語入力に習熟する手段と時間がない。3 で取り上げた「学習のまとめ」をオンライン化することを考えると、「学生の投稿フォーム」「教師のコメントフォーム」「学生の閲覧ページ」「教師の閲覧ページ」をそれぞれ作ればよい。ユーザ権限の細かい調整のできるxoops など、既存のコミュニケーションプラットフォームも利用できるだろう。しかし、大学で教養として中国語を1年間だけ学ぶ学生にとって、中国語のキーボード入力は大きすぎるコストである。中国語入力講習を実施したとしても、そもそも入力すべき文字があやふやな入門段階では、コストの問題は回避できない。欧米語なら軽減されるかというと、フランス語にもアクセント入力の問題があるなど、紙と鉛筆の方がはるかに楽である。

また、同じく3で取り上げた「質問・相談のための授業前後5分」を掲示板などの非同期型メディアに置き換えると、時間の制約に縛られないなど、利便性は上がる一方、授業と「メタな情報交換」が時間的・地理的な意味で切り離されてしまい、肝心の「質問してみよう」「友達に聞いてみよう」のきっかけがなくなってしまう。筆者は授業の情報提供のために Weblog を設けている。3年目に入ったところだが、学生からのアクセスは直接聞いた限りでは増え続けている。ところが、コメント機能の利用者はゼロに近い。これは前述の中国語入力の問題だけでなく、「同じ教科書やノートを見ながら、ここはどのような？ こうじゃないの？ とやるのが一番」(学生アンケートより)なのである。

5. 解決に向けたシステム開発

以上のことから、オンラインで初習外国語科目のメタな情報交換を促進するシステムは、以下の要件

を備える必要がある。

- (1) 外国語の特性に応じた、自前の入力支援機能
- (2) 教科書に線を引いたり、プリントに赤ペンで丸をつけながら話をしているかのような、臨場感
- (3) 印刷教材や学生のノート、答案などとのスムーズな連携
- (4) 学生の学習情報を保護するセキュリティ

目下、中国語およびフランス語の授業で用いるために、以下のシステムを開発しており、今後それぞれの有効性を検証する。有効であると認められるものについては、対応言語を増やすなど、本格的な利用に向けて備えたい。

(1) オンライン版「学習のまとめ」A

3つのまとめと感想・コメント欄を持つ Web フォームと、データベースからなるシステムである。各記入欄では、\$に続く4ケタの番号をタグとして、教科書の単語・例文・文法事項を「引用」することができる。引用部分は、Submit を押した時点で変換される。プレビューも使える。

(2) オンライン版「学習のまとめ」B

基本機能はAと同じであるが、タグによる引用ではなく、拼音字母(中国式ローマ字)による教科書の範囲に沿った単語自動入力を搭載している。また、フランス語のアクセント簡易入力も備える。

(3) ハイブリッド版「学習のまとめ」

学生番号をマークできるシートに手書きされたまとめを、イメージスキャナで取り込み、PDF化したのち教員がタブレットPCを用いてアノテーションを入れる。

(4) オンライン WhiteBoard

画像を自由に貼り付けられ、手書きで入力ができる、ネット上の「黒板」。教科書の一部などを貼り付け、質問のやり取りなどの作業場所として使う。